

科 目 名
-------

<b>コミュニケーション論</b> <b>Medical Communication</b>
---

2年 前期 1単位 必修

中川 和子（所属：熊本大学・医学薬学研究部）

### 概要と目標

医療従事者には、あらゆる職種の中で最も高いコミュニケーション能力が必要とされます。薬剤師は、チーム医療において専門性を発揮して、ベッドサイドや外来で患者・家族への服薬指導を担当し、薬物治療の選択や治験参加等のインフォームド・コンセント取得に参加します。また、地域社会では調剤薬局の薬剤師として、きめ細やかなサービスが求められます。すなわち、患者や家族の心理的状況をよく理解して、患者が病気や薬への理解を深めて、主体的に治療に参加できるように援助する責任があります。

本講義では、医療の担い手の一員である薬学専門家として、患者、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するための基本的知識、技能、態度を修得することを一般目標としています。

### 授業計画

テーマ	内容・到達目標
1回目) 自分自身を理解する	交流分析・エゴグラム・自己評価・対人尺度等に関して自己分析し、自分を知る事によって、円滑なコミュニケーションを図れるように努力する。
2回目) 患者心理を理解する	1. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。A(3) 患者心理を学び、症例の演習問題を解くことにより、以下を修得する。 2. 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。A(3) 3. 患者の心理状態を把握し、配慮する。A(3) 4. 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。A(3) 5. 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。A(3)
3回目) コミュニケーションの基礎	6. 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。A(3) 7. 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。A(3)
4回目) 薬剤師としてのコミュニケーションスキルI	導入、質問のスキル、傾聴、話を促す、終了のスキルを身につける。 8. 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。A(3)
5回目) 薬剤師としてのコミュニケーションスキルII	9. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。D1-(6)-1 10. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。D1-(6)-7
6、7回目) 服薬指導ロールプレイ	服薬指導のシナリオに基づいてロールプレイを行い、これまで学んだ医療コミュニケーションを正しく実践する努力をする。 A(3)、D1(6)-1~10

### 授業方法

講義、演習、ロールプレイなどによる。

### 評価方法

出席、ロールプレイにおける態度、定期試験から総合的に評価する。

### 教材

ファーマシューティカルコミュニケーション、ファーマシューティカルコミュニケーション研究会 編、南山堂